外国人として生きる

「フィリピン」と「日本」をつなぐ親子

永田 貴聖（ながた あつまさ）
立命館大学大学院先端総合学術研究科

日本へ嫁いで

毎週日曜日の午後、京都市のあるカトリック教会でおこなわれている、英語の朗読とタガログ語の賛美歌を合わせた国際ミサには、七〇人以上のフィリピン人が集まってくる。

「Mayroon po kayo ng patis ngayon?（今、魚醤はありますか？）」「Syempre Mayroon!（もちろん、ありますよー）」というフィリピン人女性たちの威勢の良いタガログ語が教会の駐車場から聞こえてくる。デイシーさんは日本人の夫と結婚し、京都市に住んで九年になる。彼女は二年前から、フィリピン食材をここで販売するようになった。長女（八歳）、長男（六歳）を毎週必ず連れてくる。車の後部を開けた狭いスペースに、フィリピン人たちが故郷の食材を求めて立ち止まる。

マニラ首都圏の南部、カビテ州出身の彼女は、現地の日系企業に勤務していたころ、友達の知り合いだった夫と出会った。両親は夫が二〇歳も年上のことや戦時中の日本占領による反日感情などのため交際に反対した。それでも、八ヵ月の恋愛を経て結婚した。来日当初、ことばや習慣、信仰がまったく異なる日本で何もわからず、友達もいない状態からの始まりだった。

二人の子どもが保育園のころから、デイシーさんはホテルでのパート勤務を続けている。今では、人間関係も広がり、勤務先や近所に多くの日本人の友人ができた。夫は掃除や洗濯など家事も手伝ってくれる。また、フィリピンの実家への仕送りや、家で子どもたちにタガログ語を話すことにも理解を示す。

広がる異郷での親交

現在、日本には約二〇万人のフィリピン人が暮らしている。その大半が彼女のように、日本人男性と結婚したフィリピン人女性である。多くの女性たちがことばや習慣がわからないまま日本で暮らし始める。ほとんどの夫たちは女性たちを十分に手助けするわけでも、タガログ語を話せるわけでもない。他のフィリピン人と知り合う機会もあまりなく、フィリピン人の八〇パーセント以上が信仰しているカトリックの教会もどこにあるかわからない。仕事を見つけるのにも苦労する。こうして多くのフィリピン人女性たちは、日本で孤独感を味わっている。

そのようなフィリピン人女性たちにとって、異郷での同国人同士の親交は大きな心の支えとなる。デイシーさんは外出先で偶然出会ったフィリピン人と連絡を取り合い、関係を広げてきた。しかし、出会った人たちのなかには繁華街のクラブやスナックで働く人も少なくない。デイシーさんは同じフィリピン人とはいえ、彼女らの服装の派手さ、不安定な生活を、以前はなかなか受け入れられなかった。最近、ようやく彼女らの相談に乗れるようになった。

クリスチャンである彼女は、来日直後に住んでいた家の真正面にあったカトリック教会で、異郷での自分や家族の生活の無事を毎日祈り続けた。二年前、友人から国際ミサを主催するフィリピン人コミュニティー・PAG-ASA（タガログ語で「希望」の意味）を紹介された。それ以来、コミュニティーの活動には親子で参加している。交友関係は一気に広がった。同じころに始めた教会での食材の販売は、送料などを考えるとあまり儲からない。しかし、心の支えの場である教会で、故郷の食材を提供し、多くの人びとに喜んでもらえる。今のデイシーさんにとって何よりも幸せなことである。

多文化を認める社会へ

デイシーさんと一緒に教会に来る子どもたちに、わたしがタガログ語で話しかけると、子どもたちは、何を言ったかわかっている様子で照れくさそうにしながらわたしのほうを向く。しかし、返ってくるのは日本語である。残念ながら、現在、日本で育ったフィリピン人女性の子どもの多くがタガログ語を理解しない。日本で母国の文化や言語を継承することは容易ではない。とはいえ、この二人には、日本人の父親とフィリピン人の母親のことばや文化を継承する可能性が十分に残されている。デイシーさんは、いずれ子どもたちがフィリピンの大学で学ぶことを希望している。やがて二人が日本とフィリピン双方の文化、ことばを駆使して、国境を往来しながら生活する日が来るのを夢見ている。

この子どもたちには、日本、フィリピンという択一的な国民国家や国籍の概念に縛られず、ふたつの国のことば、文化を獲得する機会が与えられている。社会には依然として、一国家一民族の意識は強く存在している。ささやかではあるが、二人の存在は、全ての人びとが国籍の違いにより偏見を受けない新しい時代を切り拓き、自由に国境を越えて往来できるグローバルな社会を実現するための原動力になるだろう。わたしは、近い将来、日本が複数のことばと民族文化を受け継ぐ全ての人びとにとって住みやすい「多文化共生社会」になることを信じ、デイシーさん親子に可能性を託したい。

教会の脇で魚醤などの食材を販売するデイシーさんと長女

家族全員そろって長女と長男の入園式

多くのフィリピン人で賑わう国際ミサ

時間になると一気に静まり返る教会内